今の大井川絵地図

保存版

大井川は南アルプスの間ノ岳（3,190m）を源流として駿河湾に流れ込む全長180kmの大きな川です。
山が高く水が豊かで水力発電に適したところとして電気を生み出す川となり、機械や電化製品を動かし私達の生活を豊にしています。
水力発電に利水された水は農業用水・工業用水・水道用水として有効に利用されています。しかし、川に魚や水生生物が住めなくなったり、堆積土砂の問題や砂浜の減少など、本来の川としての機能が失われて自然の環境は変ってしまいました。
大井川の今と昔を絵地図にしてみました。環境の変化を見くらべてみて下さい。

塩郷えんてい

- えんていの真下に大井川の水毎秒60トン～90トンがトンネルの中を通っていて直接川口発電所につながっています。
- えんていから上流部の川根本町（千頭）まで、土砂が堆積して河床が4m～6m上っています。
- さらに、井川ダム・畑薙ダムやその他のダムの上流も土砂がたまり、えんていの下流部は土砂が流れないので河床が下がっています。

※川の三大作用は
- 上流部浸食作用
- 中流部運搬作用
- 下流部堆積作用

だけども、大井川はダムのために逆の作用となりました。

発行・大井川の清流を守る研究協議会
編集・作図・小沢節子（川根本町下泉 79-1）
監修責任・山田　蔀（川根本町上長尾 1258-2）
令和3年2月　改訂